



TITLE:

あとがき

AUTHOR(S):

芦名, 定道

---

CITATION:

芦名, 定道. あとがき. アジア・キリスト教・多元性 2005, 3: 108-108

ISSUE DATE:

2005-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/57685>

RIGHT:

## あとがき

『アジア・キリスト教・多元性』第3号をお届けします。

この研究雑誌は、研究会「日本・アジアのキリスト教と宗教的多元性」の一年間の活動報告として刊行されているものであるが、とくに本号は、第19回国際宗教学宗教史会議世界大会(= I A H R。2005年3月24日から30日の日程で、東京の高輪プリンスホテルを会場に開催。大会の総合テーマは、「宗教 相克と平和」)における本研究会のパネル「東アジアの宗教状況と社会正義 - 日韓の無教会キリスト教を中心に - 」の特集号として企画された。収録された4人のパネリストの口頭発表は、本号に合わせて論文化されたものであり、これらによりこのパネルの様子は十分に理解いただけるであろう - なお、これらの諸論文は口頭発表原稿と並行して執筆されたものであり、パネルでの質疑応答は内容的に反映されていない - 。また、このパネルに関係した諸論文の他に、本号には、一つの論文と二つの研究ノートが収録されており、研究会の一年の活動を総括するにふさわしい、充実した内容になっているものと思われる。関係者にお礼申し上げたい。

本研究会のこの一年の活動は、上記のI A H Rパネルの準備を中心に進められてきたが、年度途中から新しいメンバーを加えることによって、新年度はさらに研究領域を拡大するなど、研究活動のレベルアップを行いたいと考えている。とくに、2005年度の活動として特筆すべきは、本研究会とも関わりの深いC O E研究会「多元的世界における寛容性の研究」(京都大学21世紀C O Eプログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」)の国際シンポジウムの報告も兼ねて、本研究会の研究成果を論文集として出版することが予定されている点である。論文集が出版された際には、ご高覧いただき、率直なご意見を伺うことができれば幸いである。

本研究会は、研究会メンバーそれぞれの個人研究の発表の場であるとともに、共同研究の様々な具体化を目指してきた。最近、研究会の幾人かのメンバーの協力を得て、「宗教的寛容」関連リンク(<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/user/sashina/sub16.html>)の拡充が行われたので、関心のある方はぜひご覧いただきたい。アジアのキリスト教をめぐる研究は、きわめて多岐にわたる広範な問題連関を含んでおり、一人の研究者がカバーできるものではなく、一定規模の研究者集団による共同研究として行われるべきものである。本研究会の目的は、こうした共同研究の場となることにある。とくに、上記のC O E研究会を始め、他の諸研究会とも積極的に関わり合いながら活発な活動を行ってゆきたい。アジアと日本のキリスト教、宗教的多元性といったテーマに関心のある方は、一度本研究会のホームページを参照の上、ぜひわたくしたちの研究会にご参加ください。

最後に、本雑誌の発行にご協力いただいた方々に感謝申し上げたい。とくに、研究会メンバーでもある許油先生からは、雑誌発行のために多額のご寄付をいただいたことについて謝意を表するとともに、ここにご報告したい。今後とも、本研究会のために、各方面からのご協力をいただければ幸いである。

2005年3月

研究会代表  
芦名 定道